

(7) 大洲喜多ブロック（大洲市、内子町）

～地域の紹介～

大洲喜多ブロック（大洲市、内子町）は、海岸部、盆地状の平坦部、中山間部と多様な地形と気象条件を有する地域です。海岸部では「かんきつ」、平坦部では「水稻」や野菜が盛んに栽培され、中山間部の落葉果樹（ぶどう、くり、かき）は県内一の産地であるなど、自然条件を活かした多種多様な農業が営まれています。

また、農業と豊かな自然や歴史・文化など多様な地域資源を活かした地域づくりを目指し、環境保全型農業やグリーン・ツーリズム、地産地消などにも熱心に取り組んでいます。

～産地づくり～

既存の主力品目の野菜等のほか、当地域を代表する落葉果樹（キウイフルーツ、ぶどう、くり、かき等）の生産体制強化に加え、新たなマーケットの開拓など出口戦略を見据えた取組を進め、産地ブランド力の向上に努めます。また、適地適作を基本とし、省力化や集約化を積極的に推進し、収益性の高い品目導入や栽培技術の高位平準化を図り産地基盤を強化します。

～推進品目や産地づくりの方向～

○県内有数の野菜産地の維持・発展

県内トップの生産量を誇る「きゅうり」の産地であり、新規栽培者の掘り起こしと地域に応じた作型により面積拡大と出荷期間の延長を図り、周年出荷体制の確立を目指します。また、肱川流域の肥沃な土壌条件を活かし、「すいか」と「はくさい」を組み合わせた栽培体系の推進や、「トマト」や「いちご」など施設利用型高収益品目の安定生産への取組などにより、当地域の特徴である多様な品目それぞれの生産体制を強化し、農家所得の向上を図ります。

○特色ある落葉果樹の産地力強化

「ぶどう」は「シャインマスカット」を中心に高品質化に向けて生産基盤を強化し、冬季販売などによるブランド力向上を図ります。全国的に評価の高い「くり」は新植や老木園の改植による若返りを進め生産量アップに努めます。「かき」は基本管理を徹底し、消費者ニーズに応じた階級づくりに取り組むとともに、海外輸出も目指します。「キウイフルーツ」はかいよう病感染防止対策の徹底はもとより、液体受粉による省力化と結実の安定を図ることで単収向上を目指し、さらなる面積拡大を進めます。



県内生産量 1 位のきゅうり



シャインマスカット



かき「刀根早生」

～地域づくり～

高齢化が進む中、多様な担い手を育成・確保するため、関係機関が連携したサポートチームの活動を拡充し、新規就農研修や受入体制の充実・強化に取り組めます。荒廃農地の解消のため、農地中間管理機構との連携により、担い手農家や農業法人への農地集積・集約化に向けたマッチング活動を強化します。

さらに、儲かる農業の実現に向け、中山間地域での基盤整備による農地の集約化で生産性を向上させ、省力化や高収益化を図るとともに、地域単位での営農承継を目的とした集落営農法人の設立支援を通じて地域農業の維持・発展を目指します。

～推進対象や地域づくりの方向～

○就農サポート強化による新規就農者の確保・定着支援

関係機関で構成する就農サポートチームが就農間もない農業者や研修生を包括的に支援します。基礎知識や技術の習得に向けて研修会を開催し、若手農業者のネットワークを構築するなど、地域や農家間の繋がりを深め、新たな担い手となる農業者の確保・定着を図ります。

○担い手への農地集積による地域農業の体制づくり

国営開発農地における荒廃農地の受け手となる大規模農業法人や認定農業者に対し、農地情報や経営相談などマッチング活動を強力に進めます。また、基盤整備と併せ、省力機械導入や高収益作物導入に取り組む集落営農法人を育成し、地域モデルとして地区内への波及を目指します。

○農業生産活動の維持と集落機能強化、農村の防災・減災対策

地域共同による農地や水路等の地域資源の適切な保全活動を支援し、担い手の負担軽減と農村の集落機能強化を図ります。

また、農業用ため池の決壊による被害を防止するため、ハザードマップ作成や堤体の改修等を推進し、防災・減災に取り組みます。

○鳥獣被害ゼロへ向けた取組

地域住民が一体となった鳥獣被害対策のモデル園を大洲市・内子町でそれぞれ設け、地域内へ波及させるとともに安定した農業生産が行える環境を整えます。

○地域農産物を活用した6次産業化の定着

多様な地域品目の特徴を活かした加工品開発を進め、核となる産直市での販売や県内外への情報発信、販路拡大を積極的に支援し、6次産業化の定着を図ります。



新規就農者研修会



国営農地の作付け（たまねぎ）



集落共同作業



捕獲したイノシシ



地元産品を活用した加工品

～県内有数の畜産産地の基盤強化～

県内有数の畜産産地で特に豚、肉用牛、乳用牛、ブロイラーが多く飼養され、「トウモロコシ」や「ソルゴー」などの自給飼料の栽培が盛んです。

今後も自給飼料の安定生産を支援し、面積拡大を図っていきます。一方、経営改善に向けた畜舎施設の改修、機械や家畜の導入を希望する農家に向け、補助事業や制度資金の活用による畜舎等の整備を行い、担い手の育成や畜産農家の体質強化を図ります。加えて、飼養衛生管理基準の徹底による伝染病の予防や家畜の健康維持に取り組み、畜産産地の維持・発展を支援します。



県内有数の養豚地域



～農と自然や歴史・文化が融合するグリーン・ツーリズム～

歴史が古く文化遺産も数多く残る当地区では、地域資源を活かした体験型農家民宿、「ぶどう」や「なし」観光農園など、グリーン・ツーリズムのメニューがたくさん。内子町御祓（みそぎ）地区にはその名のとおり疲れた魂を癒してくれるスポットが多く、紅葉滝もそのひとつ。街並み散策や美味しいフルーツを堪能した後は、滝に打たれて心と魂を御祓いすれば、身体も気分もきっと軽くなります。



(8) 八西ブロック（八幡浜市、伊方町）

～地域の紹介～

八西ブロック（八幡浜市、伊方町）は、四国西南の佐田岬半島とその付け根に位置し、温暖で日照に恵まれた急傾斜の段畑地域です。耕地面積の9割以上がかんきつ園地で、5つの太陽【太陽の光・海から反射する光・段畑の石垣から反射する光・マルチシートから反射する光・園内作業道から反射する光】の恩恵を受け、「うんしゅうみかん」、「清見」など全国屈指のブランド産地を形成しています。

本地域の園地は、過去には農業用水の確保に苦労しましたが、南予用水事業により取水が容易となり、傾斜地でのモノレール利用によるスプリンクラー営農は、生産方式の大きな特徴となっています。

農業就業者の平均年齢が65才と高齢化する中、収穫を始めとした農作業の労働力確保や新規参入者の受け入れを兼ねた就農支援システムが機能し始めており、近年、県内外から移住・就農した若い力が育っています。



リアス海岸に続く傾斜地段畑

～産地づくり～

「美味しいみかんづくり」と「連年安定生産による生産量確保」を、生き残りをかけた産地の目標として掲げ、消費者はもとより「かんきつ」を取り巻く関係者に信頼されるブランド産地を維持できるよう、「うんしゅうみかん」の売上100億円、特産「清見」などの中晩柑類の売上50億円の目標を連年で達成していけるよう、組織連携を強化して「柑橘王国えひめ」を支える日本一のブランド産地の維持・発展を目指します。

～戦略品目や産地づくりの方向～

○生産基盤整備の推進

樹園地の約7割に多目的スプリンクラー施設が整備されており、当該施設を核とした共同による営農体系が確立されています。

生産者の高齢化や労働力不足が課題となる中、生産拡大のための機械・施設整備、園地の若返りを図りながら、西宇和ブランドを維持・発展させていきます。

南予用水施設においては、基幹施設に加え、スプリンクラー等の末端施設も含めた老朽化対策、また、地域のニーズに対応した園内作業道や区画整備等の生産基盤整備に取り組みます。

○日本一のブランドみかん産地の維持・発展

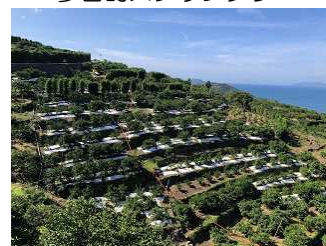
儲かる農業の実現に向け、マルチ栽培を増やすとともに自動化施設を活用したマルチドリップ施設の整備を進め、営農の効率化による生産量確保と高品質果実の安定生産拡大に努めます。

○未来型かんきつ生産に向けたスマート営農体系の確立

アシストスーツやAI選果機による作業時間削減や労働負荷軽減を実現しながら、気象ロボットによる気温、土壌水分含量、EC等の園地環境情報を効率的に収集するとともに、これらの情報を農業クラウドの経営・栽培管理ソフトに「見える化」「最適化」し、園地管理や作業管理へフィードバックすることによって、更なる収量UPや品質向上を図るなど、スマート農業による未来型柑橘生産一貫体系を構築します。



多目的スプリンクラー



段畑でのマルチ栽培



マルチドリ栽培給水ユニット



気象ロボット

○地域特有の戦略的品目による産地の牽引

地域特産の「清見」、「川田温州」、県オリジナル品種の「甘平」、新たな品目の「フィンガーライム」等、戦略的品種・品目の高品質・安定生産技術の確立に努めるとともに、新たな販路開拓等を支援します。また、新規生産者の掘り起こしと育成を図り、生産拡大と産地強化を目指します。



「川田温州」半樹別着果

～地域づくり～

地域農業者が主体となった就農支援チームを各地区に設立し、移住就農者を確保・育成するとともに、集落営農法人の設立支援や新規就農者、大規模認定農業者、法人経営体の育成を通して、全国有数のかんきつ産地を次世代に継承します。

また、集落機能を維持するために、地域資源の保全活動はもとより、担い手の負担軽減を図るための安定した労働力の確保に向け、働きやすい農村環境を整備します。

～推進対象や地域づくりの方向～

○新規就農者の確保・育成

農業体験から就農・定着までのサポートを行う就農支援チームを順次設立していきます。また、就農フェアへの参画、新規就農者を対象とした栽培技術講座の開催、個別農業経営フォローアップ等を行い、就農者の確保と定着促進を図ります。



新規就農者の石積み研修

○雇用労働力の確保によるブランド産地の維持・発展

関係機関で組織する「西宇和みかん支援隊」により、アルバイト等の確保や産地間連携のほか、愛媛お手伝いプロジェクト本部と連携した有償ボランティアを確保する取組を推進します。



みかんアルバイト

また、雇用労働力確保のため、園地内トイレや宿泊施設等の労働環境の整備を進め、ブランド産地の維持・発展に努めます。

○経営モデルの育成による産地振興

省力化や高付加価値化の推進等による個別大規模経営体の法人化支援や集落営農組織の掘り起こし・法人化等集落機能の強化に努め、地域の強みを最大限に発揮し、次代につなぐべき産地の維持・発展に努めます。



農産物加工研修



～みかん産地の PR 活動～

○2018年11月から「西宇和みかん」の品質を保証する統一ロゴ「Nマーク」の表示で出荷を開始しました。JAから出荷される「うんしゅうみかん」は新デザインの「N箱」に統一され、段ボールや店頭販売の袋、店頭ツールなどで産地をPRしています。

～6次産業化や農商工連携の取組～

○2019年5月には、八幡浜市で日本初となるダルメイン世界マーマレードアワード&フェスティバル日本大会が開催され、1,600点を超えるマーマレードの出品がありました。この大会の入賞者の中から、法人化へ発展する取組もあり、「かんきつ」を活用した商品開発が進んでいます。

(9) 西予ブロック (西予市)

～地域の紹介～

西予ブロック(西予市)は、県の南部中央に位置し、宇和海を臨む海拔0mの沿岸部から1,400mの四国カルストに至る広範囲に広がる変化に富んだ立地条件を活かして、果樹、水稲、野菜、畜産、施設園芸など多種多様な農業を展開しています。

宇和盆地では、県内有数の穀倉地帯が広がり、水田を活かした「水稲」・「麦」・「大豆」、施設園芸(いちご)、海岸部(三瓶、明浜)では、温暖な気候を利用した「かんきつ」(うんしゅうみかん、ぽんかん)、中山間部(野村、城川)では、野菜(きゅうり、トマト、青ねぎ)、果樹(くり、ゆず)、畜産等の産地が形成され、特色ある農産物の生産に取り組んでいます。

中でも、水田では、基盤整備や担い手への農地集積を図るとともに、耕畜連携の推進により県内一の畜産振興に取り組んでいます。また、高品質良食味米「ひめの凜」やいちご「紅い雫」等の県オリジナル品種を積極的に導入し、県内有数の産地を目指しています。

～産地づくり～

県育成品種等や基盤整備地に導入する戦略品目等を基幹品目として、気象や立地条件など地域の「強み」を活かした生産体制の強化を図るとともに、今後新たな産地化に向けた品目等について、市場情勢の変化への対応やマーケットの開拓など出口戦略を見据えた生産振興と、それを維持するための労働力確保等中長期的な産地づくりに取り組みます。

～推進品目や産地づくりの方向～

○売れる米づくりと水田フル活用による産地強化

減農薬米や「ひめの凜」をはじめとする良食味米について、地域に密着した生産技術を開発・普及するとともに、新たな販路開拓による有利販売を目指します。「飼料米」、「麦」、「大豆」、「ソバ」等の生産振興を図り、「主食用米」に頼らない多様な水田農業を推進し、経営の高度安定化を図ります。

○魅力あるかんきつ産地の維持

県オリジナル品種や優良品種への転換、老木園の改植を行い、収益性の向上を図ります。かんがい用水の安定確保のため、既存用水施設の老朽化対策に取り組み、急傾斜地にある樹園地では、各種事業を活用し園内作業道やモノレールの導入・整備、農繁期の農作業支援の拡充による省力化・生産性の向上を図ります。

○県下最大の野菜産地の維持・発展

県育成品種の「いちご」、「夏秋きゅうり」の産地の更なる発展に向け、高齢者や新規栽培者にも取り組みやすい新たな省力化技術や総合防除技術体系の導入等により、担い手の確保を図るとともに、販売先のニーズに即した安全・安心な産地づくりを目指します。

○中山間地域の果樹振興、ゆず・くり産地の強化

「ゆず」は、栽培技術の向上を図るとともに、「青ゆず」の収穫による隔年結果防止と「青ゆず」の新たな活用・販売を展開し、中山間地域で着実な生産拡大を目指します。「くり」は、厳しい園地審査をクリアした「奥伊予特選栗」の生産振興に取り組み、更なる産地維持とブランド化を目指します。

○基盤整備等を契機とした高収益野菜の新規産地化

高齢化の進む中山間地域において、基盤整備等により農地の集積や生産性が向上することで、地域農業の継承が可能となる軽量で省力かつ高収益が期待できる「青ねぎ」、「にんにく」、「にら」等の産地化を目指します。



県オリジナルブランド米「ひめの凜」



宇和海を望むみかん畑



県オリジナル品種「紅い雫」



「青ねぎ」の栽培

～地域づくり～

担い手不足と荒廃農地の増加を解消するため、生産基盤の整備を進めると同時に、担い手への農地集積と生産性の向上を図り、地域が一体となって農地を継承していくシステムを構築するとともに、生産基盤のない新規就農者をサポートするなど、農家子弟を含めた幅広い担い手の育成に取り組みます。

～推進対象や地域づくりの方向～

○地域を支える担い手の確保と育成

集落営農組織や法人への農地集積を促進するため、生産基盤の整備（圃場の大区画化、地下水制御システム等）を進め、土地利用型作物（水稻・麦・大豆等）の省力化と規模拡大を図るとともに、高収益露地野菜（玉ねぎ、青ねぎ、ケール等）の導入を進め、経営の多角化と高収益化を進めます。

また、認定農業者の経営発展や女性の経営参画を推進するとともに、伝統ある「伊予生系」の生産や鳥獣被害対策を支える等多様な担い手を育成します。

○新規就農者の確保と定着支援

農業次世代人材投資事業等を活用しながら就農希望者の円滑な就農を支援するとともに、経営開始後の個別の課題解決と営農定着を重点的に支援します。また、青年農業者組織への加入を推進し、組織活動を通じて次代を担う地域のリーダーを育成します。

さらに、JAや農業法人等と連携して研修生の受入れに取り組むなど、新規就農者の確保に努めます。

○農業・農村の強靱化に向けた防災・減災対策

農業用ため池の決壊等による被害を防止するため、ハザードマップの作成や老朽化した堤体の改修を推進し、農村の防災・減災に取り組めます。

○農地の保全管理と集落機能の維持

農村の有する多面的機能が適切に発揮されるよう、豊かなふるさとを守る、地域ぐるみの取組を支援します。



ドローンによる水稻防除



新規就農者の研修会



ため池の改修

～県内一の畜産地帯の維持・発展～

県内最大の産地で乳用牛、肉用牛、豚、ブロイラーの飼養頭羽数は県内一を誇り、乳用牛と肉用牛の飼養頭数は県内で50%以上を占めています。また、地域の公共牧場（四国カルスト大野ヶ原牧場）を活用した優良後継牛の増頭にも取り組んでいます。また、従来の飼料作物に加え、耕種農家や営農組織（コントラクター組合等）で生産される稲発酵粗飼料・飼料米など、自給飼料の増産に向けた生産体制の整備・拡充を積極的に推進します。

さらに、ブランド畜産物の生産拡大、補助事業等を活用した畜舎施設・機械の整備、後継者の育成、衛生管理の徹底等を通じて産地の維持・発展に取り組めます。



四国カルスト大野ヶ原の育成牧場

～ジオの恵みを活かした6次産業化の取組！～

「大豆」、「かんきつ」、「ゆず」、「くり」、「いちご」、「トマト」といった農産物に付加価値をつけたオリジナリティあふれる6次産業化産品が誕生しています。

また、地元のトマト農家のお母さんたちが運営する農家レストラン「食堂ゆすかわ」（城川町遊子谷）や、奥伊予工房が運営する団体客向け「ジオ・キッチン」（道の駅どんぶり館）では、旬の地域食材をいっしょに使った食事を提供しています。ぜひ、ご賞味下さい！



(10) 宇和島ブロック (宇和島市)

～地域の紹介～

宇和島ブロック (宇和島市) は三方を山に囲まれ、西はリアス海岸の宇和海に面しています。沿岸斜面には全国でも有数のかんきつ産地が形成されており、平成31年2月、当地域を含む南予の急峻な斜面に拓かれた段々畑でのかんきつ生産の営みが高いサステナビリティを有するとして、日本農業遺産に認定されました。

宇和島市は、愛媛みかん発祥の地と言われ、「かんきつ」の栽培面積は約2,700haで、約34,000tが生産されています。栽培品種も多種多様で、「南柑20号」などの「うんしゅうみかん」の他、「河内晩柑」や「不知火(デコポン)」などの中晩柑品種も多く、特に「ぽんかん」や「ブラッドオレンジ」は日本一の産地となっています。

「水稻」は、作付面積の約80%を「コシヒカリ」の早期栽培が占めており、「みま米」等県内有数の良食味米地帯となっています。野菜は、「きゅうり」・「なす」・「さといも」等の高収益品目にも取り組んでいます。

西日本豪雨で、吉田町を中心に農地や農道、農業用施設・機械等が甚大な被害を受け、一日も早い産地の復興を目指し、基盤整備等による園地の復旧や担い手への農地の集積、高品質生産技術の実証等に取り組んでいます。



宇和海を臨むみかん山

～産地づくり～

西日本豪雨災害からの復興と被災前よりパワーアップしたかんきつ産地を目指し、基幹品種(南柑20号等)と多彩な品種の組み合わせによる周年供給体制に加え、農地の集積や高品質生産技術の実証・普及、新品種の導入等を進めるとともに、農家の所得向上を目的に、水田を有効利用した「さといも(伊予美人)」の産地化や「ブラッドオレンジ」の国内No.1産地の維持・拡大など、地域の特色を活かした産地振興に取り組めます。

～推進品目や産地づくりの方向～

○魅力あふれるかんきつ産地づくり

急峻で厳しい園地条件の中、地域特性を活かして栽培されている「南柑20号」を中心とした個性豊かな品種の組み合わせによる周年供給体制に取り組み、競争力ある産地を目指します。

そして、農業者が安心して農業経営を行い、被災前より数段パワーアップした魅力的な産地を目指し、優良園地の担い手への集積を推進するとともに、県オリジナル品種「愛媛果試第48号(紅プリンセス)」など高い収益性が期待される品種の導入・産地化のほか、マルドリ・根域制限栽培等による高品質・省力栽培を可能にする施設の整備など園地復旧後の早期成園化に向けた栽培技術の確立等に取り組めます。

また、省力化・軽労働化を進めるとともに、収穫時の労働者確保などの労働力補完体制の整備に取り組めます。

○地域の特色を活かした産地づくりによる経営の安定

県内有数の良食味米産地である当地域における県オリジナルブランド米「ひめの凜」の産地化や水田の有効利用に有望な「さといも(伊予美人)」の省力生産体系等による産地化、優良種芋供給基地の育成、全国No.1の生産量を誇る「ブラッドオレンジ」等の栽培推進に加え、(株)源吉兆庵と連携した加工用果実(もも、くり、かき、びわ)の作付拡大と安定出荷等に向けた取組を進め、特色ある産地づくりによる経営の安定を目指します。

また、耕畜連携を推進し、新規需要米等の栽培と利用を通し、地域の環境に調和した共存型の畜産経営を推進します。



根域制限栽培



「さといも」ほ場互評会



労働環境改善のための簡易トイレの設置

～地域づくり～

農家の高齢化が進み、担い手不足が深刻化する中、集落営農組織の設立や意欲のある経営体の規模拡大を図るほか、農業団体による営農活動や進出企業による生産活動、女性等による6次産業化やグリーン・ツーリズムなど多様な担い手が活躍できる地域づくりを進めます。また、家族経営協定の推進により家族ぐるみで経営に参画し、夢を実現できるようメリハリのある経営や労務管理の取組を推進します。地域の鳥獣被害対策や荒廃農地対策も進め、安心して農業に取り組める地域づくりに努めます。

～推進対象や地域づくりの方向～

○農地を守る担い手の経営安定

水田地帯では、農地の受け手となる集落営農組織の設立と法人化を図り、規模拡大を目指す経営体への農地集積を進めます。さらに、地域内が連携した研修機能創設により、新規就農希望者の農業生産や経営管理の技術習得を支援します。

一方、かんきつ地帯では、農家自ら立ち上げた法人組織等による営農活動や園地のマッチングを支援します。また、JA生産者の研究組織等による機械共同利用や共同防除組織の機能維持にも努めます。

生産環境面では、管内全域でイノシシ・シカ等野生鳥獣による農作物被害が継続しており、侵入防止柵の設置や捕獲等により被害軽減を図ります。また、荒廃農地“予備軍”の早期発見と対策に努め、生産力のある農地を保全します。

○新規就農者の育成と多様な担い手の定着

学童・生徒に農業や南予地域の魅力を伝えるとともに、農業支援センターを窓口に対農希望者に対する就農相談や情報提供を行います。さらに、新規就農者、就農初期青年への生産技術・経営のスキルアップの場の提供や、女性農業者の一次産業女子ネットワーク等組織活動への参加を通じた情報交換や経営ノウハウ習得を進めるほか、農家による6次産業化やグリーン・ツーリズムの取組、域外からの参入企業による農業生産や農産加工も支援します。



集落営農組織による大豆収穫



(株)玉津柑橘倶楽部



ニューファーマー講座

～産地づくりと地域づくりを基盤整備で支えます～

水田地帯においては、農地中間管理機構と連携したほ場整備を実施し、担い手への農地集積と所得向上を後押しします。

樹園地地帯においては、既存かんがい施設の老朽化対策を実施し、農業用水の安定確保に努めるとともに、樹園地の再編整備を進め、災害に強く生産性の高い農地に作り替えながら、担い手への農地集積と所得向上を後押しします。

その他、ため池については、ハザードマップ作成や老朽化した堤体の改修を実施し、農村地域の防災・減災対策を進めるとともに、優良農地の荒廃を防止し、農業・農村の持つ多面的機能を将来にわたって発揮させるため、地域ぐるみで保全管理に取り組む共同活動を支援します。



日本農業遺産(石積講習会)



ブラッド オレンジ 生産日本一



みま米



かんがい施設改修状況



宇和島市PRキャラクター
伊達にゃんよ

～イタリアが薫る深紅の果実「ブラッドオレンジ」～

- * インパクトのある真っ赤な果実。赤い果肉の秘密は、ワインなどに多く含まれるアントシアニンです。
- * コクのある甘さ、芳醇な香り、すっきりとした酸味と豊かな風味。ジュースも美味しいよ。
- * 「タロッコ」と「モロ」の代表的な2品種があります。
HP : <http://www.blood.orange.jp/>



(11) 鬼北ブロック（鬼北町、松野町）

～地域の紹介～

県南部にそびえる鬼ヶ城山系の北に位置する鬼北ブロック(鬼北町、松野町)では、年間の温度差が大きい盆地型気候を活かして多様な農業経営が営まれています。農地面積 1,740ha の内、水田が 74%を占め、基盤整備等により県内でも有数の早期米地帯となり、経営面積が 20ha を超える経営体も育ち、県オリジナル品種「ひめの凜」の栽培も始まっています。

果樹では、県内でも有数の「くり」や松野町特産の「もも」を和菓子の原材料として、(株)源吉兆庵に供給するほか、管内で育成されたゆず「鬼北の香里」が急速に普及しています。また、松野町では、「キウイフルーツ」花粉生産の産地化を目指し、全国に先駆けて花粉の生産技術開発に取り組んでいます。

野菜では、「きゅうり」「なす」などの振興品目に加え、軽量作物の「なばな」「ほうれんそう」、また最近「ブロッコリー」「さといも」が増加傾向です。

畜産では農家数は減少しましたが、規模拡大や差別化により経営の安定化を図っています。



普及が進む
ゆず「鬼北の香里」

～産地づくり～

「水稻」は、新品種の導入や主食用米の需要に即した生産に努めるとともに、スマート農業を推進し、生産振興を図ります。果樹では、特産の「ゆず」について地域品種の普及を図り、「くり」「もも」については、(株)源吉兆庵への安定供給を実現します。また野菜においては、「きゅうり」の産地復活を後押しし、需要拡大が見込める軽量野菜生産の振興を図るとともに、農地の整備を進め、新たなビジネスや地域特産品の開発についても取り組みます。

～推進品目や産地づくりの方向～

○「水稻」の大規模経営体育成と優良農地集積に向けた環境整備

「ひめの凜」等の新品種や新規需要米など、売れる多様な米生産の振興を図ります。また規模拡大に伴い、直播・密播栽培等やドローン防除等の省力化技術の普及を図ります。また、ため池の改修やハザードマップの作成、農業用排水路の更新を進め、農業用水の確保と農村地域の防災・減災に取り組めます。

○ゆず「鬼北の香里」の産地化と高付加価値型栽培の実践

「鬼北の香里」の普及・定着を図り、有機JASに準じた栽培により付加価値を高め、果汁の安定生産に取り組むほか、生果は海外輸出にもチャレンジします。

○加工用品種の栽培支援と(株)源吉兆庵への安定供給の確立

(株)源吉兆庵への安定供給に向け、「くり」は伐採した林地において、灌水・鳥獣被害防止設備を備えた大規模モデル園を設置し、「加工もも」は徹底した排水対策を講じたモデル園で新植園の早期成園化に取り組み、普及を図ります。

○キウイフルーツ花粉ビジネス栽培へのチャレンジ（日本初）

松野町で新たなビジネスモデルを構築するため、キウイフルーツ花粉生産の産地化と安定供給基地を目指します。

○野菜産地の復活と地域特産野菜の推進による農家所得の向上

「きゅうり」は、空きハウス利用や7月以降の定植拡大等を推進し、産地の復活を目指します。「なす」「さといも」や「なばな」「ほうれんそう」「ブロッコリー」等の軽量野菜の作付けを支援し、経営の安定化を図ります。

○地域の優れた特産品の育成

第三セクターや作業支援の拡充などにより特色ある地域産品「鬼北熟成雉」「うめ」の生産維持に努めます。



「くり」の大規模
高収益モデル園



ため池の改修整備



「水稻」直播栽培



「もも」の排水対策モデル園

～地域づくり～

規模拡大に伴う省力化技術の普及を図るとともに、経営多角化や集落営農の組織化により、中山間地における「水稻」を中心とした農業経営の安定と地域農業の維持・発展を目指します。また、農業支援センター等と連携し、認定農業者や女性等による6次産業化やグリーン・ツーリズムなど、多様な担い手が活躍できる地域づくりを推進します。また、荒廃農地拡大の最大要因となっている鳥獣被害対策に取り組むとともに、獣肉資源（ジビエ）の有効活用に努めます。豊かな自然や食材等の地域資源を活用して都市との交流を促進します。

～推進対象や地域づくりの方向～

○大規模経営体の育成と競争力のある農業経営支援

水田地帯では、各町の公社と連携し、地域ごとに受け手となる大規模経営体を育成しながら、農地集積を推進し、各種補助事業や低利融資の活用、新技術の導入等に取り組みます。優良経営体の法人化を進めるとともに、人・農地プランに位置付けられた担い手に対して、他地域のモデルとなる競争力の高い経営体を育成します。また、多面的機能を有する農地等の地域資源を適切に保全管理するため、地域ぐるみで取り組む共同活動を支援します。

集落環境面では、侵入防止柵の設置や捕獲等により、管内全域で増加しているイノシシ・シカ等による被害軽減を図るとともに、獣肉加工施設の整備を進め、ジビエの利活用を図ります。

○多様な担い手の育成（就農支援・集落営農組織体制整備）

農業支援センターや各町公社と連携し、認定農業者・農業生産法人の育成と、高齢化・兼業化に対応できる就農支援や集落営農体制の整備に取り組みます。また地域おこし協力隊やU・I・Jターン就農を促進するため、関係機関が連携し、環境整備を実施します。6次産業化等、高付加価値型農業経営を推進します。

○都市との交流促進（地域資源活用）

産学官・農商工連携等により豊かな自然や食材、農産物直売所・農林漁家民宿などの交流拠点を活かして「鬼のまち」「森の国」ブランドを育てます。さらに交流拠点の整備・拡充や農林漁家民宿の開業支援などにより、農業の振興と都市住民との交流を進め、地域活性化を図ります。



（株）源吉兆庵との加工もも出荷検討会



キウイフルーツ花粉事業・花粉用苗木の定植



人・農地プランの地域懇談会



「きゅうり」空ハウス移設作業



「ひめの凜」収穫風景



ゆず「鬼北の香里」の収穫



（株）源吉兆庵出荷用「加工もも」



きほくんときじのすけ（鬼北町）

とげの少ないゆず「鬼北の香里（きほくのかおり）」



本県の「ゆず」は全国第3位の生産量で、うち南予地域が9割を占めています。鬼北町で発見されたとげの少ない「ゆず」が平成25年に種苗登録され、鬼北管内で普及しています。



のぶしくんといよびじんちゃん（松野町）

(12) 愛南ブロック (愛南町)

～地域の紹介～

愛南ブロック (愛南町) は、愛媛県の南西部に位置し、高知県宿毛市と隣接しています。年間平均気温は 16.8℃、年間降水量は 1,902mm と温暖多雨な気象条件を活かし、かんきつ類では 12 月以降に収穫する中晩柑の生産が盛んで、「河内晩柑」や「甘夏」を中心に「ポンカン」、「不知火 (デコポン)」等が栽培されています。昭和 46 年に熊本県より導入された「河内晩柑」の栽培面積は 169ha、生産量約 5,000 t (H30 年産) で全国一を誇っています。

「水稻」は、8 月に収穫を行う早期米の生産が盛んで、栽培面積の約 80% を占めており、県内で最も早く新米が出回ります。

野菜は、「かんきつ」や「水稻」の裏作として「ブロッコリー」の栽培が盛んで、県内一の産地が形成されており、夏秋期は小規模ながら「なす」や「しょうが」等が生産されています。施設野菜は、地元出荷の「トマト」、「いちご」の取組や大規模な「青ねぎ」等の葉物生産に農業生産法人が取り組んでいます。



宇和海を臨むかんきつ園

～産地づくり～

主力品目「河内晩柑」を中心としたかんきつ産地の維持・発展を目指し、生産基盤や生産体制の強化を図りつつ、多様化する消費者ニーズに対応した加工品の開発や新たなマーケット開拓など出口を見据えた販売戦略を進め、ブランド力向上に取り組みます。また、水田の有効利用と農業所得の向上を目指し、「ブロッコリー」による長期安定出荷のできる産地づくりや、地域の特色を活かした高収益野菜の振興と定着に取り組みます。

～推進品目や産地づくりの方向～

○「河内晩柑」を核とした果樹産地強化と農産物加工へのチャレンジ

全国一の生産量を誇る河内晩柑産地を守るため、老木園地の改植や新植の推進により生産基盤を強化するとともに、省力化と高品質安定生産による生産体制の強化に取り組みます。また、大久保山ダム等を水源とするかんがい施設の長寿命化対策や老朽化したため池の改修を実施し、安定した農業用水の確保を図ります。

さらに、将来的に需要拡大が期待できる農産物加工について、令和 4 年度稼働予定の農産物加工場を核に、安定的な原料供給から加工品の製造、販路開拓まで産地が一体となって取り組み、国内外への新たな販路開拓にも積極的にチャレンジします。

また、ポスト「甘夏」対策として「レモン」や県オリジナル品種の導入も進めます。

○「ブロッコリー」の産地強化

新規栽培者の掘り起こしや規模拡大を目指す農家を支援し、更なる産地拡大を図ります。そのため、秋から春にかけて作付時期の分散を図り、省力化や軽労働化技術の導入とともに、難病害対策や排水対策を講じ、長期安定出荷のできる産地づくりに取り組みます。

今後も共同育苗や共同出荷等のメリットを活かしつつ、消費者に信頼される産地づくりに取り組みます。



たわわに実った「河内晩柑」



ため池の改修整備



産地化が進む「ブロッコリー」

○水田の有効利用による地域野菜の生産拡大

小規模ながら定着し始めている「なす」、「しょうが」、「さといも」、「スイートコーン」、施設栽培の「青ねぎ」等の生産振興による水田の高度利用を図ることにより、経営の安定化を図ります。



定着が進む「しょうが」

～地域づくり～

農業・農村を支える多様な担い手を確保・育成するため、関係機関が連携し、研修制度や受入体制の充実・強化を図り、新規就農者や新規参入企業等の定着支援に取り組みます。優良な農地を維持・活用するため、中心的経営体や集落営農組織の育成・法人化を進め、地域農業基盤と地域コミュニティの維持を図ります。また、女性の起業活動や農業経営への参画を支援し、次代の地域農業を担う女性農業者を育成します。農業・農村の魅力を活かしたグリーン・ツーリズムやイベント等に取り組み、交流人口の増加と地域の活性化を図ります。

～推進対象や地域づくりの方向～

○新規就農者の確保・定着支援

関係機関が連携し、就農候補者の円滑な就農を支援するとともに、経営開始後の個別の課題解決と営農定着を支援します。

また、補助事業を活用しながら、管内のJA等と連携して研修生受入に取り組みほか、青年農業者組織への加入を推進し、組織活動の支援を通じて次代のリーダーとなる人材育成に努めます。

○地域を支える多様な担い手の確保・育成

地域を支える中心的経営体を育成するため、補助事業や低利融資の活用、雇用労働力確保対策等を通じ、個々の経営体の体質強化に取り組みます。また、規模拡大を目指す経営体への農地集積を図り、法人化を推進します。

水田地帯においては、農地を引き受ける集落営農組織の設立を支援します。また、多面的機能を有する農地等の保管理に向け、地域ぐるみで取り組む共同活動を支援します。地域で活躍する女性農業者による組織活動の活性化や経営ノウハウの習得を支援するほか、6次産業化やグリーン・ツーリズムに取り組む個人や組織に対しても支援します。

○鳥獣被害対策の推進

各種補助事業を活用した侵入防止柵の設置や銃猟・わな免許の取得等を推進し、被害低減を図り、安心して営農に取り組むことができる環境づくりに努めます。



愛南農業フォーラム



加工品開発講習会



シカの出没風景



～「河内晩柑」の果皮に多く含まれる機能性成分「オーラプテン」～

愛媛県と松山大学、愛媛大学、(株)えひめ飲料の研究グループは、連携して「オーラプテン」を豊富に含んだ「河内晩柑」の果汁入り飲料の製造方法の研究を進め、愛媛大学医学部附属病院において高齢者を対象としたヒト介入試験を実施した結果、認知機能の維持、改善に効果があったと報告されています。

